

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：12201
 研究種目：基盤研究 C
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22520518
 研究課題名（和文） 日本語学習者のライティング能力向上を目指したパラフレーズ教育方法に関する研究
 研究課題名（英文） Development of Japanese Language Education Methods for Paraphrasing to Improve Japanese Language Learners' Academic Writing Skills
 研究代表者
 鎌田 美千子（KAMADA MICHIKO）
 宇都宮大学・留学生・国際交流センター・准教授
 研究者番号：40372346

研究成果の概要（和文）：本研究では、留学生に対するアカデミック・ライティング教育の観点からこれまで行ってきた一連の実証研究に基づき、パラフレーズ教材『アカデミック・ライティングを学ぶ留学生のためのパラフレーズ演習』を開発した。複数の大学での試行を経て完成した本教材は、主に単語を別の単語に言い換える「基礎編」、長さのある表現から意味を読み取って言い換える「発展編」、大学での実際の課題に近い形式の「実践編」から構成されている。これらの問題演習を通してパラフレーズのスキルを段階的に学ぶことができる。

研究成果の概要（英文）： We have developed a teaching material which aims to improve Japanese language learners' academic writing skills and is focused on paraphrasing. The development of it conducted based on the results which analyzed in our previous empirical studies. The teaching material titled *Paraphrasing Exercises for Academic Writing in Japanese* consists of three parts: 1) Basic exercises for paraphrasing from a word to another, 2) Exercises for paraphrasing that condenses meaning, 3) Practical exercises similar to academic paper. It was utilized for Japanese language classes at several universities. The skill of paraphrasing is learned gradually through these exercises.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：学術日本語教育、アカデミック・ジャパニーズ、アカデミック・ライティング、パラフレーズ、言い換え、書き換え、教材開発

1. 研究開始当初の背景

同じ内容であっても、筆記と口頭では、言語表現や述べ方が異なる。また、同じ筆記であっても、レポートや論文における文章と、発表スライドや発表レジュメにおける箇条

書きでは、それぞれの表現形式が異なる。したがって、聴いた内容や話した内容を書く場合、また読んだ内容や書いた内容を話す場合には、文体に応じたパラフレーズ（言い換え、書き換え）が必要となる。また、同じ内容を

書く場合であっても、レポート・論文と発表スライド・発表レジュメでは、それぞれの表現形式に応じたパラフレーズが必要となる。さらに、レポートや論文において間接引用を行う場合、また字数制限に合わせて要旨を書く場合においても、文章展開に応じたパラフレーズが必要となる。こうしたパラフレーズには、目的や伝達手段、ジャンル、場面などに応じて適切な言語表現の使い分けが伴うため、大学でのアカデミック・ライティングに取り組む留学生にとって重要な課題の一つとなっている。留学生に見られる日本語の問題には、具体的に次のようなものがある。

- ・レポートや論文を書く際に、話し言葉の表現を使ってしまう。
- ・ゼミの発表で用いるスライド（パワーポイント）で、箇条書きや短い文でのまとめができず、長い文や文章を書いてしまう。
- ・文献や資料から得た情報をレポートや論文に間接引用として書く際に、自分の文章の展開に合わせて書くことができず、前後の文にうまくつながらない。
- ・「レポートや論文では書き言葉を用いる」「発表スライドや発表レジュメでは簡潔に示す」と理解していても、実際の日本語の使用場面に生かせない。

留学生を対象にした、これまでのアカデミック・ライティング教育においても、講義や発表で用いられる言語表現と、文献や論文で用いられる言語表現を適切に使い分けることは基本的な事項とされてきたが、その一方で、パラフレーズに関しては、必要な学習項目として十分に取り上げられてこなかった。

このような問題背景をふまえ、平成19-21年度科研費基盤研究(C)「日本語学習者の文章産出におけるパラフレーズに関する研究」(課題番号:19520442)(以下、「平成19-21年度科研費研究」と略す)では、留学生を対象にしたアカデミック・ライティング教育のための基礎研究の一つとして、表1の通り、三つの観点から五つの調査研究を行い、第二

表1 平成19-21年度科研費研究

	研究対象
パラフレーズと原文表現使用	《調査1》文章の難易度とパラフレーズとの関係
語彙面	《調査2》使用語彙の難易度とパラフレーズとの関係
	《調査3》話し言葉から書き言葉へのパラフレーズ
	《調査4》名詞化における和語と漢語の誤用
統語面	《調査5》文章から箇条書きへのパラフレーズ

言語としての日本語によるパラフレーズの困難点を語彙面及び統語面から解明した。これらの調査研究の結果から、多様なパラフレーズの学習と新たな教材が必要であるという結論を得たが、教材開発にあたっては、ディスコースレベル、すなわち文章・談話面からの検討が課題として残されていた。

そこで、本研究では、上述した平成19-21年度科研費研究に続く研究として、新たに文章・談話面に焦点を当て、日本語のトップダウン処理上の困難点を究明するとともに、これまでの研究を総括した上でアカデミック・ライティングに必要なパラフレーズの教育方法を教材の形で提案することを試みた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アカデミック・ライティングを学ぶ留学生を対象にしたパラフレーズの教育方法を構築することにある。アカデミック・ライティングに必要なパラフレーズの学習を主眼とした日本語教材はこれまでに出版されていないことから、本研究期間内に、留学生を対象にした日本語の授業で使用できる冊子体の教材を刊行することを目指した。

3. 研究の方法

上述した目的を達成するために、以下の(1)~(9)の順で、パラフレーズの教育方法を検討し、アカデミック・ライティングを学ぶ留学生を対象にした教材を開発した。

- (1)パラフレーズ分析(文章・談話面)
- (2)平成19-21年度科研費研究及び上記(1)に基づく学習項目の選定
- (3)教材の設計
- (4)教材の試作
- (5)試作教材の試行と評価1(研究代表者・分担者の所属大学での実施)
- (6)試作教材の改善1
- (7)試作教材の試行と評価2(研究代表者・分担者の所属大学以外での実施)
- (8)試作教材の改善2
- (9)教材の刊行

4. 研究成果

以下、(1)文章・談話面の分析から得られた結果と、(2)本研究で開発したパラフレーズ教材の概要、(3)試行と改善について順に述べた後、最後に(4)本研究の成果と意義について述べる。

(1)文章・談話面の分析

要約や間接引用では、文章に直接書かれていない非明示的な意味を言語化することがあるが、従来の日本語教材では、この種の学習が不足していたため、心理言語学的モデル

(van Dijk and Kintsch 1983, Kintsch 1998)に基づく分析と、提示する問題文のあり方に関する検討を行った。

分析にあたっては、もとの文章中の非明示的な意味に着目して、留学生の要約文(中国語母語話者 19名、韓国語母語話者 14名、日本語能力試験 N1 相当)と日本人大学生(12名)の要約文を分析した。その結果、留学生と日本人学生の間で、もとの文章にない表現を用いたパラフレーズの使用に量的・質的な差異が見られた。特に文化的・社会的な背景知識が関連する表現からのパラフレーズに難しさが生じていたことから、学習項目として取り上げる必要性が示唆された。

本分析で得られた結果をふまえ、後述するパラフレーズ教材の「発展編」及び「実践編」の問題文の一部を作成した。

(2)教材の概要

本研究で開発したパラフレーズ教材の概要は、以下の通りである。

①対象

大学・大学院で日本語によるレポート、論文、発表スライド、発表レジュメを作成する必要がある留学生(日本語能力試験 N1 相当)を主な対象とした。専攻分野は限定せず、一般的に共通して取り組める内容とした。

②本教材のねらい

開発した教材では、図 1 に示す通り、「読んだことを書く」「聴いたことを書く」「話したことを書く」「書いた内容を別の表現形式で書き直す」といった時に用いるパラフレーズを取り上げ、留学生のアカデミック・ライティング能力の向上を目指している。教材を開発するにあたって学習到達目標を「レポートや論文、発表スライド、発表レジュメのそれぞれに必要なパラフレーズを習得し、適切に使用できるようになること」とした。

③本教材の特長

従来の日本語教材のように学術場で必要となるライティングをレポート・論文とい

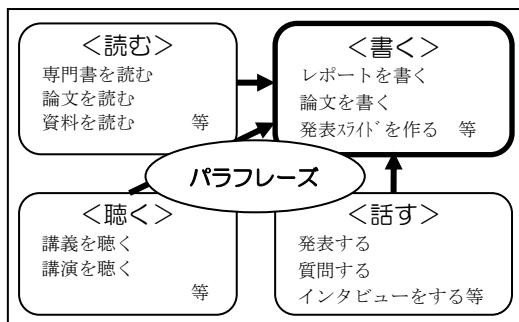


図 1 本教材で扱うパラフレーズ

った枠組みからのみ考えるのではなく、「読む」「聴く」「話す」「書く」といった言語活動と結びつけた問題構成とした。具体的には、関連文献を読んでその内容をレポートの一部にまとめる、講義や講演を聴いてレポートの一部にまとめる、インタビュー調査で得られた発言の内容をレポートの一部にまとめる、論文の要旨を定められた字数でまとめる、ゼミで発表する内容を発表スライドにまとめるといった学術的場面に付随するパラフレーズを取り上げ、留学生のライティング能力を向上させる問題演習を多数提示した。

④全体の構成と内容

本教材は、「基礎編」「発展編」「実践編」の三部から構成されている。以下、それぞれについて順に述べる。

《基礎編：単語を言い換える》

主に一対一に対応する単語レベルでのパラフレーズを取り上げている。具体的には、a)書き言葉、b)和語と漢語、c)名詞化、d)ジャンルによる語の使い分けに関する四つの課と総合問題 2 題から構成されている。一連の問題には、語の共起に考慮して言い換えるものも含まれている。

《発展編：意味を読み取って言い換える》

パラフレーズの範囲を基礎編よりも広げ、ある程度長さのある表現を言い換えるパラフレーズを取り上げている。具体的には、a)複数の文や長い文を簡潔に言い換える、b)上位概念に言い換える、c)事柄・事象を簡潔に言い換える、d)含意を表す/内容を読み取って言い換えるといった四つの課と総合問題 2 題から構成されている。一連の問題では、簡潔に内容をまとめることに焦点を当てている。

《実践編：目的に応じて言い換える》

総仕上げとして、大学でのレポートや論文、発表などを想定した問題演習を提示している。具体的には、a)インタビュー調査の結果をレポートにまとめる、b)関連文献の内容をレポートにまとめる、c)発表原稿の内容を発表スライドにまとめる、d)レポートの内容を発表スライドにまとめる、e)要旨をまとめるといった問題演習である。内容・分量ともに大学の授業で実際に課される課題とほぼ同じか、それに近い形式の問題演習となっている。これらの問題演習を通して、実際のアカデミック・ライティングでもパラフレーズが使えるようになることを目指している。

⑤各課の構成と内容

「基礎編」「発展編」の各課は、説明→ス

ステップ1→ステップ2→ステップ3の順に段階的に進んでいく。ステップ1では、該当箇所を適切に言い換える。ステップ2では、一文または複数の文の中から不適切な表現や冗長な表現を見つけて言い換える。ステップ3では、100～500字程度の文章・談話の内容を指示に従ってレポート・論文・発表スライド・発表レジュメの一部としてまとめる。

「基礎編」「発展編」のそれぞれの最後には、各課での学習を総括する総合問題を設けている。この総合問題は、「実践編」への橋渡しの位置づけにある。

「実践編」の各問題では、それぞれ400～2000字程度の文章・談話の内容を、指示された表現形式でまとめるといった課題を提示している。

開発した教材では、以上の段階的な問題演習を通して、個々のパラフレーズがそれぞれどのような場合に必要になるのか、またどのように言い換えるのかを学ぶことができる。

(3) 試行と改善

① 学習者による評価と改善

研究代表者及び研究分担者が所属するそれぞれの大学で試作教材 ver. 1 を用いた試行を実施した(2011年4～7月)。いずれも留学生(日本語能力試験 N1 相当、国籍: 中国、韓国、マレーシア、ベトナム)を対象にした日本語の授業で行った。

授業後に教材として有用か否かを留学生に尋ねたアンケートでは、4段階評価(4: 強くそう思う、3: そう思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない)で平均3.3の評価値となり、概ね肯定的な評価が得られた。自由記述欄には、「論文を書く際には必要な練習」「話し方と書き方の対照を通して書く能力(の向上)に役立つ」といったコメントや、「語を言い換えるのは(中略)文全体の意味を理解することが前提である」「文章の中で言い換える練習は、言葉を覚えるのにも役立つ」といったコメントが寄せられ、必要な練習であるという認識とともに、文脈の中でパラフレーズを捉えることの意識化を図ることができた。

試行した授業での留学生からの質問や解答状況、各問題演習に係る時間等を把握した結果から、主に a) 各課における説明の提示方法、b) 1課当たりの問題数、c) 各問題の難易度といった面から改善を図り、試作教材 ver. 2 を作成した。

② 教員による評価と改善

本研究で開発した教材を教材開発者以外にも広く使いやすいものにするといった観点から、試作教材 ver. 2 の試行を国内の4大学に依頼し、実施した(2012年9～12月)。

試行後の教員へのインタビューでは、全般

的に良好な評価が得られ、開発者以外でも授業に活用できることが確認された。

試行結果をふまえて、さらに a) 個々の表現の調整、b) 問題文の配列の変更による難易度の調整、c) 留学生にとってわかりにくい語への注の追加、d) 漢字の読みに関する一覧の追加といった面から改善を図った。

③ 教材の刊行

以上の試行と改善を経て、パラフレーズ教材『アカデミック・ライティングを学ぶ留学生のためのパラフレーズ演習』(B5版、全86頁)を刊行し、高等教育機関、日本語教育関係機関、教員、留学生に配付した。

(4) 本研究の成果と意義

本研究の成果と意義は、以下の点に総括される。

第一に、留学生を対象にしたパラフレーズ教材を新たに開発した点である。本研究を通して、アカデミック・ライティングに必要なパラフレーズを学習項目として整理するとともに、必要な練習を提示することができた。従来の日本語教材では、ごく一部のパラフレーズしか取り上げられていなかったが、本教材によって、単語レベル、文レベル、文章・談話レベルといったそれぞれの言語処理に応じたパラフレーズを体系的に学ぶことができるようになった。

第二に、学術場面で必要となるライティングを、従来の日本語教材のようにレポート・論文といった枠組みからのみ捉えるのではなく、「読む」「聴く」「話す」「書く」といった言語活動と結びつけて考えることにより、パラフレーズの意識づけができた点である。このような日本語教材は従来なかったものであり、アカデミック・ライティングを学ぶ留学生の一助になると思われる。

本研究では、第一段階として紙媒体での教材化を進めたが、今後は、CDやWebサイトを活用した音声メディアとの関連づけを視野に入れた改善を図っていきたい。

参考文献

- Kintsch, W. (1998) *Comprehension: a paradigm for cognition*. New York: Cambridge University Press.
- van Dijk, T. A., and Kintsch, W. (1983) *Strategies of discourse comprehension*. New York: Academic Press.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 鎌田美千子、第二言語としての日本語によ

るパラフレーズの問題とその教育方法—
アカデミック・ライティング教育の観点から—、
仁科喜久子監修・鎌田美千子・曹紅荃・
歌代崇史・村岡貴子編『日本語学習支
援の構築—言語教育・コーパス・システム
開発』、査読無、2012、pp. 63-76

- ②鎌田美千子、留学生を対象にしたパラフ
レーズ教材の必要性と教材開発—日本語ア
カデミック・ライティング教育の観点から
—、外国文学、査読無、61号、2012、pp. 1-13
- ③鎌田美千子、具体例からの抽象化に伴うパ
ラフレーズの分析—文体の違いを文章・談
話レベルから考える—、外国文学、査読無、
60号、2011、pp. 55-66

〔学会発表〕(計4件)

- ①鎌田美千子、アカデミック・ライティング
のためのパラフレーズ教材における問題
作成上の課題—要約における意味の統合に
着目して—、International Conference on
Japanese Language Education 2012、2012.
8. 19、名古屋大学
- ②鎌田美千子・仁科浩美、アカデミック・ラ
イティングのためのパラフレーズ教材の
試行と学習者評価、第38回日本語教育方
法研究会、2012. 3. 10、国際基督教大学
- ③鎌田美千子・仁科浩美、日本語アカデミッ
ク・ライティング教育におけるパラフレ
ーズ教材の必要性と開発の試み、2010年度日
本語教育学会研究集会(第9回)、2010. 11.
13、宮城教育大学
- ④鎌田美千子、文体の違いに対する日本語学
習者のパラフレーズ—具体例からの抽象
化に着目して—、International
Conference on Japanese Language
Education 2010、2010. 8. 1、国立政治大
学、台湾

〔図書〕(計2件)

- ①鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ラ
イティングを学ぶ留学生のためのパラフ
レーズ演習』、宇都宮大学、2013、全86頁
- ②仁科喜久子監修・鎌田美千子・曹紅荃・歌
代崇史・村岡貴子編『日本語学習支援の構
築—言語教育・コーパス・システム開発』、
凡人社、2012、全291頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

鎌田 美千子 (KAMADA MICHIKO)
宇都宮大学・留学生・国際交流センター・
准教授
研究者番号：40372346

(2)研究分担者

仁科 浩美 (NISHINA HIROMI)
山形大学・理工学研究科・准教授